

令和6年6月26日
独立行政法人 家畜改良センター

黒毛和種、褐毛和種(高知系・熊本系)及び日本短角種の
遺伝的能力の推移を公表しました

- 1 家畜改良センターでは、肥育農家の同意が得られた枝肉情報等からなる和牛各品種のデータベース(以下、「枝肉DB」といいます。)を管理・運営しています。枝肉DBを構築するにあたり、肥育者情報、格付情報の調査・入力等については(公社)日本食肉格付協会が行い、肥育牛の子牛登記情報の入力等については(公社)全国和牛登録協会(黒毛和種・高知系褐毛和種)、(一社)日本あか牛登録協会(熊本系褐毛和種)及び(一社)日本短角種登録協会(日本短角種)が行っています。
- 2 枝肉DBを構築する目的の一つは、全国的な改良の動向を把握することであり、この度、家畜改良センターにおいて、枝肉DBに蓄積された情報を用いて令和5年と畜分までの分析が終了した、黒毛和種、褐毛和種(高知系・熊本系)及び日本短角種の遺伝的能力の推移を昨年引き続き、ウェブページで公表しました。
- 3 概要を添付しますが、詳細は、家畜改良センターのホームページの「トップ」>「家畜改良」>「肉用牛枝肉情報全国データベース」(<https://www.nlbc.go.jp/kachikukairvo/data/index.html>)に掲載しておりますので、ご参照下さい。

お問い合わせ先

独立行政法人家畜改良センター改良部情報分析課

担当者:細野、小林

電話:0248-25-4904(直通)

FAX:0248-25-3982

URL: (<https://www.nlbc.go.jp/>)

『日本の畜産 改良と技術で育てます』

概要

今回公表した黒毛和種、褐毛和種（高知系・熊本系）及び日本短角種の遺伝的能力の推移は、2023年12月と畜分までのデータ（黒毛和種：約460万件、褐毛和種（高知系）：約0.7万件、褐毛和種（熊本系）：約12万件、日本短角種：約2万件）を用いて算出しました。

黒毛和種の評価形質は、日齢枝肉重量、枝肉重量、ロース芯面積、バラの厚さ、皮下脂肪の厚さ、歩留基準値及びBMSの7形質です。褐毛和種（高知系・熊本系）及び日本短角種は、これら7形質に加え、BCS、しまり及びきめも評価しています。

今回の結果から見受けられる遺伝的能力の推移における主なポイントは以下のとおりです。（詳細は、報告書本体をご覧ください。）

1. 黒毛和種

- ・ 種雄牛については、各形質とも概ね順調に改良が進展。特に、直近においてはロース芯面積、歩留基準値及びBMSで改良が顕著。ただし枝肉重量は横ばい。
- ・ 繁殖雌牛については近年、日齢枝肉重量、枝肉重量及びバラの厚さで改良速度が向上していない時期があったが、直近においては改良が進展。

2. 褐毛和種（高知系）

- ・ 種雄牛については、各年に生産された頭数が非常に少ないため、繁殖雌牛の結果のみ表示。
- ・ 繁殖雌牛についても、各年に生産された頭数が近年では少なくなっており、近年では年ごとに大きくばらついている。いずれの形質においても、概ね緩やかに改良が進展していたが、近年はロース芯面積、バラの厚さ、皮下脂肪厚及びBMSで停滞又は減少傾向にある。

3. 褐毛和種（熊本系）

- ・ 種雄牛については、各年に生産された頭数が少なく、年ごとに大きくばらついているものの、いずれの形質においても、概ね順調に改良が進展。
- ・ 繁殖雌牛についても、いずれの形質においても、概ね順調に改良が進展しており、特に近年のロース芯面積及び歩留基準値の改良速度が上昇しているが、日齢枝肉重量及び枝肉重量で停滞傾向にある。

4. 日本短角種

- ・ 種雄牛については、各年に生産された頭数が少なく、年ごとに大きくばらついているものの、ロース芯面積、皮下脂肪厚及び歩留基準値で横ばい、その他の形質においては、概ね緩やかに改良が進展。
- ・ 繁殖雌牛についても、ロース芯面積、皮下脂肪厚及び歩留基準値で横ばい、その他の形質においては、概ね緩やかに改良が進展。
- ・ ただし、直近においては、種雄牛、繁殖雌牛ともに、日齢枝肉重量、枝肉重量、バラの厚さ及びBMSで減少傾向にある。